

消滅している。これらの植物が、当時の田島ヶ原の植生を構成し生育していたことは、当時の指定地に現在よりもより湿潤な水環境があったことを証明している。なお、外来種のおオマツコイグサ・イヌホオズキは、当時はいたる所で繁茂していたが、次第に衰退して消滅し、現在では他所でもほとんど見かけなくなっている。また、ニンニク・ラッキョウ・ネコヤナギ・オオヤハズノエンドウ（ザートウィッケン）・ゴボウなどの栽培植物が入っているが、これは耕作地に栽培されていたものが野生状態でしばらく残存していたものである。

以上のことから、当時の指定地の自然環境には、水環境が中性の耕作地とともに水環境が極めて湿潤な湿性環境の存在していたことが知れる。しかし、より湿潤な湿性環境を好む多くの湿生植物が消滅していることから、その後、より湿潤な湿性環境が変化して現在の水環境が中性に近い状態に至っていることが明らかにされた。このことは、指定地で乾燥化が進んだことの証として捉えることができよう。

● 途中から繁殖した植物（136 分類群）

フジハナヤスリ・アカハナワラビ・ミドリヒメワラビ・シケシダ・ノキシノブ・メダケ・タチカモジグサ・ミノゴメ・コメヒシバ・ヒメイヌビエ・トボシガラ・ケチヂミザサ・タマミソイチゴツナギ・ムラサキエノコログサ・ネズミノオ・ヤガミスゲ・コジュズスゲ・イトアオスゲ・ヤブスゲ・アゼスゲ・チャガヤツリ・ヒメクグ・クグガヤツリ・カヤツリグサ・ハマスゲ・シュロ・イグサ・クサイ・ジャノヒゲ・ニガガシウ・オニドコロ・ネジバナ・ナガバカワヤナギ・ザクロソウ・ノミノツツリ・ツメクサ・コハコバ・ケキツネノボタン・アオツツラフジ・クサノオウ・ムラサキケマン・コモアマンネングサ・ヤブヘビイチゴ・ダイコンソウ・ミツバツチグリ・ユキヤナギ・ヤブマメ・クララ・ムラサキツメクサ・カタバミ・アカカタバミ・アリアケスミレ・タチツボスミレ・ムラサキコマノツメ・オカウコギ・コナスビ・ヒメジソ・レモンエゴマ・ヒオドリジョウゴ・ウリクサ・スイカズラ・バアソブ・ノコンギク・トキンソウ・トネアザミ・ヤブタバコ・コウゾリナ・シロバナタンポポの68分類群は、指定地周辺にも生育している在来種で、その多くは湿生植物である。周辺から指定地に進出してきたと考えられるもので、全体の半数に当たる50.0%を占めている。

次に、ヤクナガイヌムギ・ギョウギシバ・コスズメガヤ・ヒロハウシノケグサ・ネズミムギ・ホソムギ・シマスズメノヒエ・オオスズメノカタビラ・ニワゼキショウ・イヌビユ・アレチギシギシ・ナガバギシギシ・エゾノギシギシ・オランダミミナグサ・マメグンバイナズナ・カキネガラシ・オキジムシロ・アレチヌスビトハギ・コメツブウマゴヤシ・アメリカフウロ・ムラサキカタバミ・オッタチカタバミ・オオニシキソウ・コニシキソウ・アレチマツヨイグサ・アメリカネナシカズラ・ヒメオドリコソウ・アメリカイヌホオズキ・ワルナスビ・マツバウンラン・ヘラオオバコ・アレチウリ・オオブタクサ・ヒロハホウキギク・コセンダングサ・アメリカオニアザミ・アレチノギク・オオアレチノギク・ベニバナボロギク・アメリカタカサプロウ・ハキダメギク・チチコグサモドキ・ウラジロチチコグサ・キクイモ・オオオナモミの45分類群が外来植物で、全体の33.1%を占めている。外来植物の多くは、水環境が中性に近いアルカリ性の土壌を好んで生育するとされている。